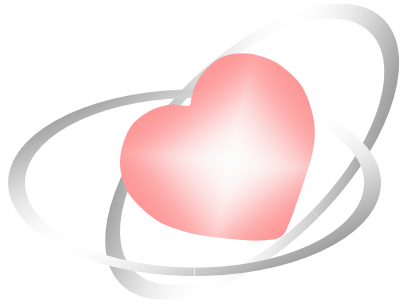


(厚生労働省委託事業)

成年後見制度利用促進体制整備研修 開催要項

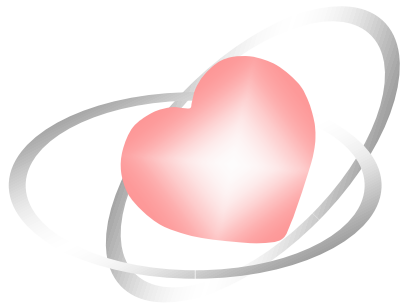
主催： 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

* 当日用 *



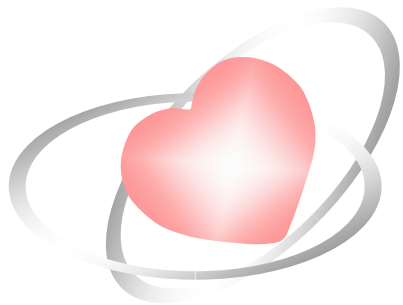
対象者理解・対人援助基礎

ルーテル学院大学 総合人間学部
教授 福島喜代子



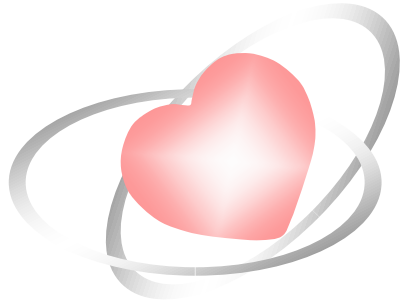
講義の流れ

- 1 成年後見制度の対象者とは
- 2 なぜ、生活者として、「人」としての理解が必要か
- 3 成年後見制度の対象者の理解と支援で大切なことは



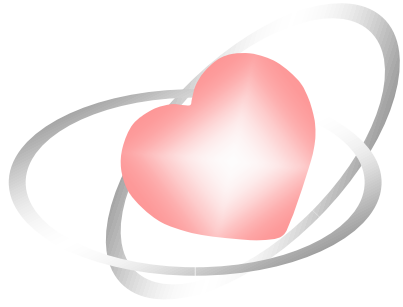
成年後見制度の利用者とは？

- 判断能力が不十分な方
- 判断能力が著しく不十分な方
- 判断能力が欠けているのが通常の状態の方



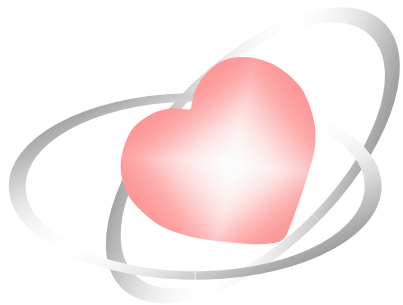
具体的な利用者は？

- 知的障害者
 - 精神障害者
 - 認知症高齢者
- 等



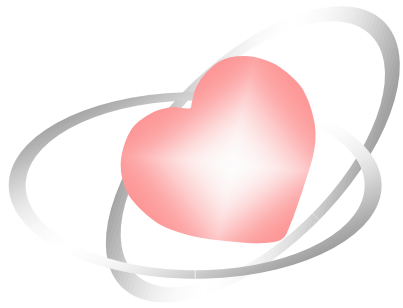
知的障害者とは

- 発達期（生まれてから、おおむね18歳まで）より判断能力が不十分な方
- 社会における適応行動に制約を伴うことが多い



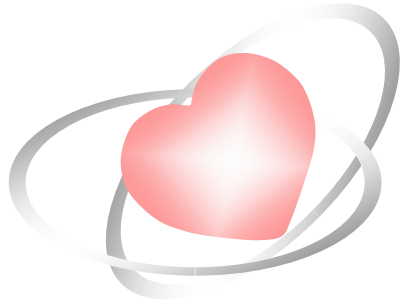
精神障害者とは

- 精神疾患による精神症状等ゆえに判断能力が不十分となることがある方
- 日本人の約3%には精神疾患がある（この全ての人が判断能力の不十分な方にはあたらない）。
- 代表的な精神疾患である統合失調症は人口のおよそ0.7%の罹患率である。
- この精神疾患は、15-35歳の間に発病する。



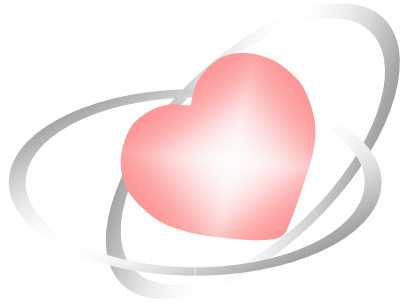
認知症高齢者とは

- 人生の後半に、脳の器質的障害によって、判断能力が低下し、不十分となる方。
- 認知症はさまざまな疾患が原因である。
- 代表的なアルツハイマー病以外にも複数の疾患が原因としてある。
- 65歳以上の罹患率は約15%と推測されている



判断能力が(不十分、著しく不十分、欠けているのが通常の状態)とは？

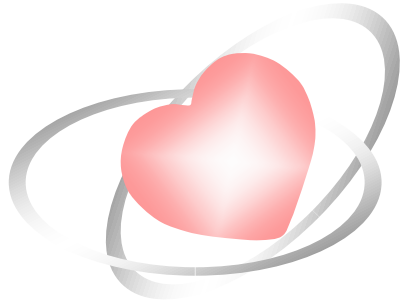
- 判断をするのに、人の支援が必要な状態にある
- ということ



判断とは？

- 前後の事情を総合して、物事の是非曲直や選定を最終的に取り決めること。
- 曲直 = 正しいことと、正しくないこと

* 新明解国語辞典(第7版) 2012

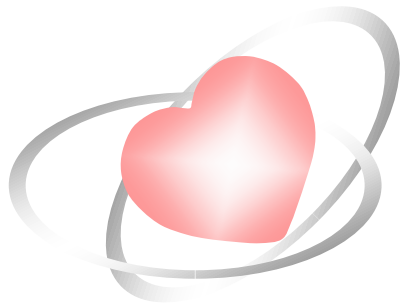


判断を具体的に描写すると①

定義

具体的には

前の事情
後の事情
を総合して、
物事の是非
や選定を
最終的に取
り決めること



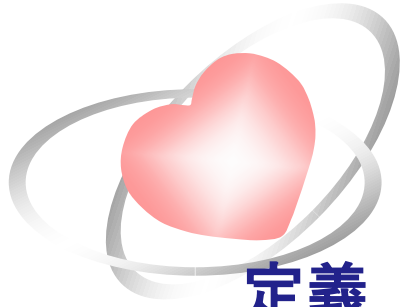
判断を具体的に描写すると②

定義

前の事情
後の事情
を総合して、
物事の是非
や選定を
最終的に取
り決めること

具体的には

- 収入や資産の状況、生育歴・生活歴・生活状況、身体・心理・社会的状況を総合して



判断を具体的に描写すると③

定義

前の事情

後の事情

を総合して、

物事の是非

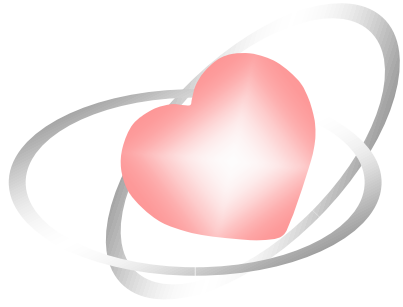
や選定を

最終的に取

り決めること

具体的には

- お金を何にどの程度使うのか、
どのようなサービスをどの程
度利用するのか、日常生活
で何を選ぶのか



判断を具体的に描写すると④

定義

具体的には

前の事情

後の事情

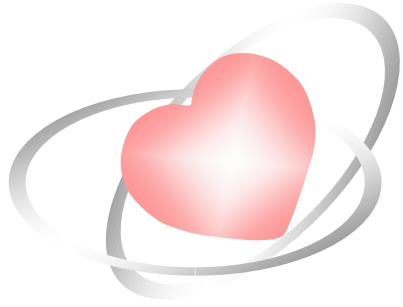
を総合して、

物事の是非

や選定を

最終的に取り決めること

- 意思表示を行う



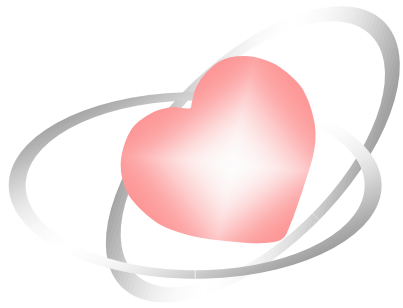
判断を具体的に描写すると⑤

定義

前の事情
後の事情
を総合して、
物事の是非
や選定を
最終的に取
り決めること

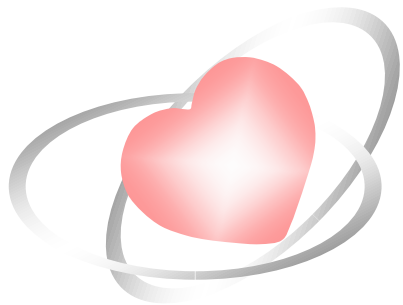
具体的には

- 収入や資産の状況、生育歴・生活歴・生活状況、身体・心理・社会的状況を総合して
- お金を何にどの程度使うのか、
どのようなサービスをどの程
度利用するのか、日常生活
で何を選ぶのか
- 意思表示を行う



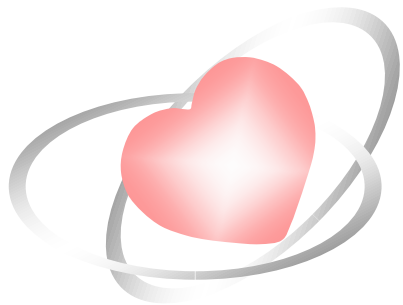
判断力が不十分だとなぜ支援が必要か？

- 前後の事情を総合するのが難しいことがある
- 本人の人権が守られるような、物事の是非や選定が難しいことがある
- 最終的に取り決め、表示することが難しいことがあるため



どのような支援が必要か？

- 前後の事情を総合する → 支援
- 本人の人権が守られるような、物事の是非や選定 → ができる支援
- 最終的に取り決め、表示する → 支援

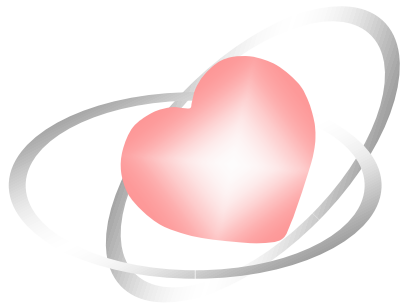


判断の支援のためには①

具体的には

そのために

- 収入や資産の状況、生育歴・生活歴・生活状況、身体・心理・社会的状況を総合する
- お金を何にどの程度使うのか、どのようなサービスをどの程度利用するのか、日常生活で何を選ぶのか
- 意思表示を行う

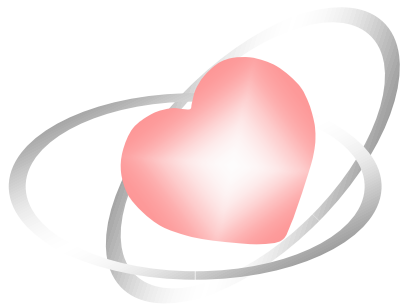


判断の支援のためには②

具体的には

そのために

- 収入や資産の状況、生育歴・生活歴・生活状況、身体・心理・社会的状況を総合する
 - お金を何にどの程度使うのか、どのようなサービスをどの程度利用するのか、日常生活で何を選ぶのか
 - 意思表示を行う
- その人を生活者、「人」として理解する

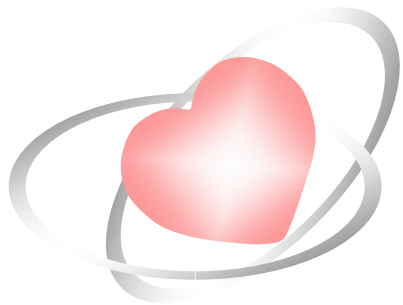


判断の支援のためには③

具体的には

そのために

- 収入や資産の状況、生育歴・生活歴・生活状況、身体・心理・社会的状況を総合する
- お金を何にどの程度使うのか、どのようなサービスをどの程度利用するのか、日常生活で何を選ぶのか
- 意思表示を行う
- 日常生活、社会生活の場面における意思決定を支援する

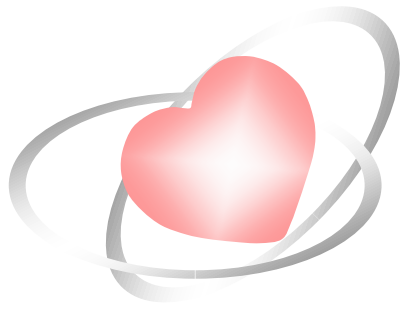


判断の支援のためには④

具体的には

そのために

- 収入や資産の状況、生育歴・生活歴・生活状況、身体・心理・社会的状況を総合する
- お金を何にどの程度使うのか、どのようなサービスをどの程度利用するのか、日常生活で何を選ぶのか
- 意思表示を行う
- 意思疎通を支援する



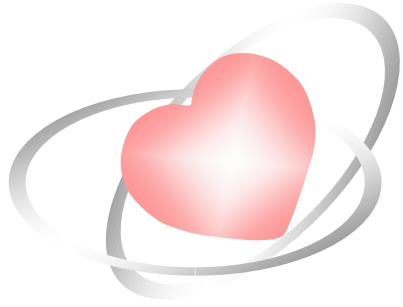
判断の支援のためには⑤

具体的には

- 収入や資産の状況、生育歴・生活歴・生活状況、身体・心理・社会的状況を総合する
- お金を何にどの程度使うのか、どのようなサービスをどの程度利用するのか、日常生活で何を選ぶのか
- 意思表示を行う

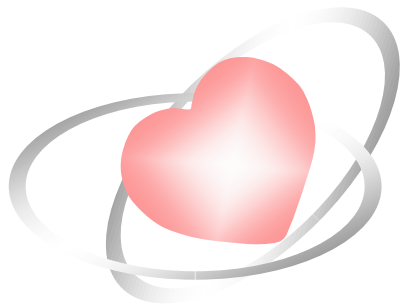
そのために

- その人を生活者、「人」として理解する
- 日常生活、社会生活の場面における意思決定を支援する
- 意思疎通を支援する



本人の判断の支援には

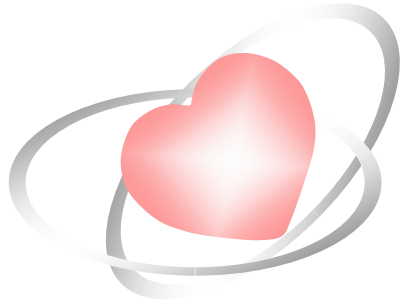
- 本人の理解が必要
- 「人」として理解することが必要



判断をする場面とは？

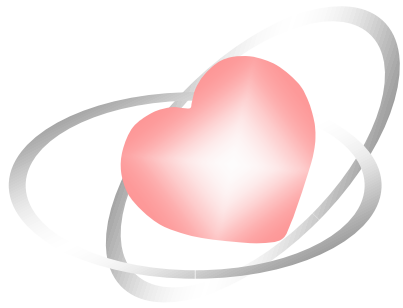
(「本人情報シート」の言葉で説明すると)

- 日常の意思決定
→ 毎日の暮らしにおける活動
- 日常的な行為
→ 毎日の日課、サービス利用
- 金銭管理
→ 所持金の支出入の把握、管理、計算等



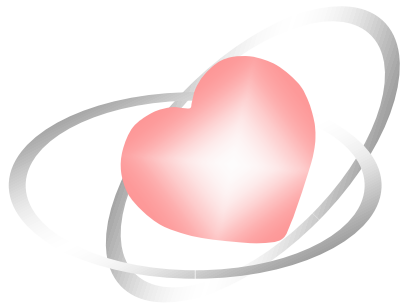
日常の意思決定

- 日常の意思決定
= 毎日の暮らしにおける活動
= 例) テレビ番組、献立、服の選択
についての意思決定



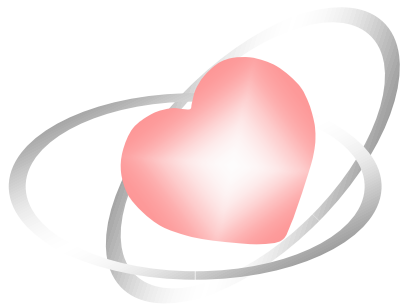
日常的な行為

- 日常的な行為
= 毎日の日課、サービス利用への対応
= 例) 食事、入浴等の日課や、福祉サービス事業のスタッフへの対応
について



金銭管理

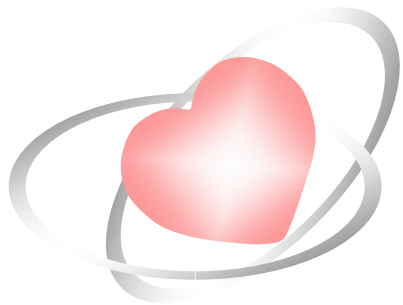
- 金銭管理
 - ＝所持金の支出入の把握
 - ＝所持金等(財産、有価証券等も含め)の
管理
 - ＝所持金等の計算
- について



意思決定支援ガイドラインでは

(障害福祉サービスの利用等にあたっての意思決定支援ガイドライン/認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン)

- ① 日常生活における場面
- ② 社会生活における場面



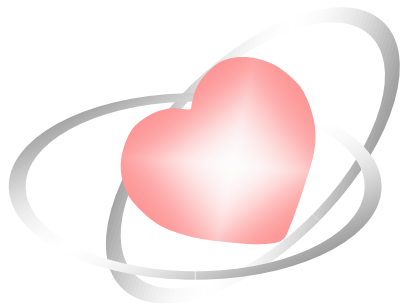
① 日常生活における場面

(障害福祉サービスの利用等にあたっての意思決定支援ガイドライン)

- 基本的生活習慣に関する場面

例) 食事、衣服の選択、外出、排せつ、整容、入浴等

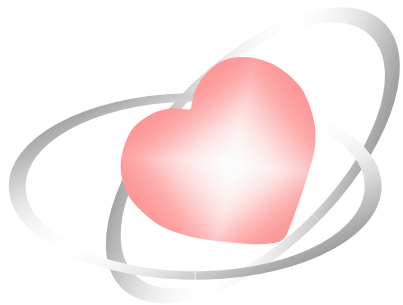
- 複数用意された余暇活動プログラムへの参加を選ぶ等の場面



② 社会生活における場面

(障害福祉サービスの利用等にあたっての意思決定支援ガイドラインでは)

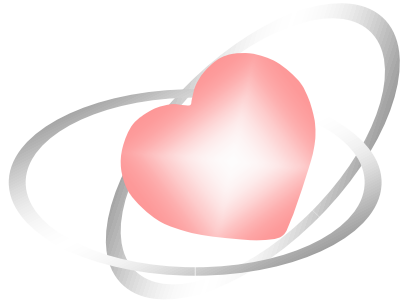
- 自宅からグループホームや入所施設等に住まいの場を移す場面
- 入所施設から地域移行してグループホームに住まいを替えたり、グループホームの生活から一人暮らしを選ぶ場面



③ 社会生活における場面

(認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインでは)

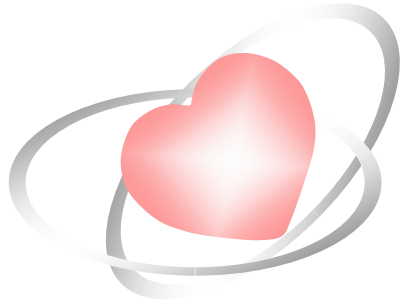
- 自宅からグループホームや施設等に住まいの場を移動する場合(その逆やその間も)
- 一人暮らしを選ぶか
- どのようなケアサービスを選ぶか、
- 自己の財産を処分する等



判断するためには

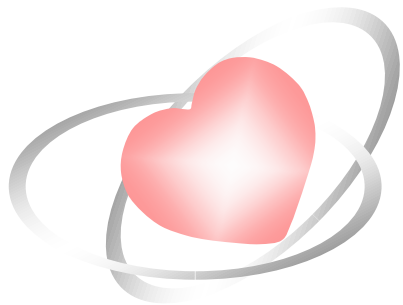
- 情報の入手
- 情報の理解
- 情報の伝達 (意思の伝達)

が必要



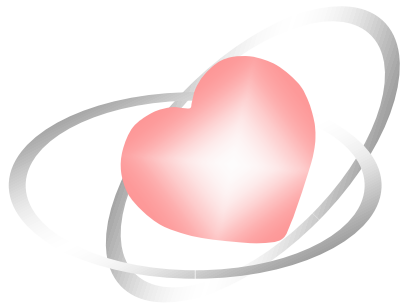
本人の判断の支援には(再掲)

- 本人の理解が必要
- 「人」として理解することが必要



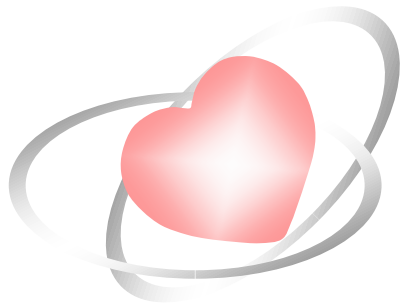
知的障害者の理解では

- 知能 (IQ) と、生活能力 は異なる
- 日常の 生活能力 は高い方がおられる
- 成人してからも、生活の中で「できること」は 増えていく



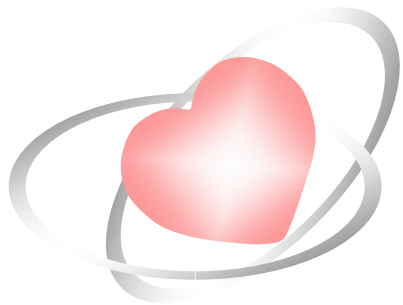
知的障害者の支援では

- これまで「家族や周囲の者が代替してきたこと」と
- その中で「これから本人が身につけていけること」を理解し、「本人ができるようになるよう」支援していくことが大切
- できるだけ具体的な話をする
- ゆっくり、区切りながら話をする



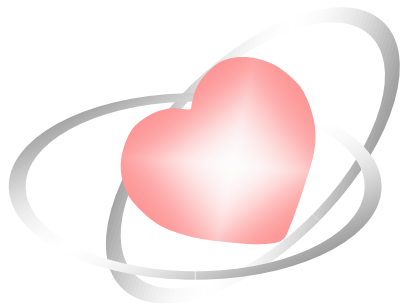
精神障害者の理解では

- 精神疾患は、青年期以降あるいは成人してから発症している
- 精神症状には波がある（判断能力も変化する）
- 長期の服薬が必要で、薬の副作用などのために、集中力などに限界がある方もいる



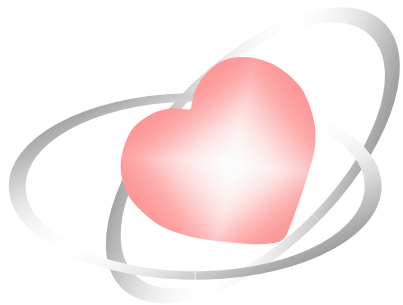
精神障害者の支援では

- 発症するまでの本人の夢や希望を理解し、尊重すること(何を目指して生きてきたか？得意なもの何か？)
- 本人の興味や関心を尊重する(仕事を選択するときなど)
- 本人の生活のしづらさに配慮する(生活様式など)



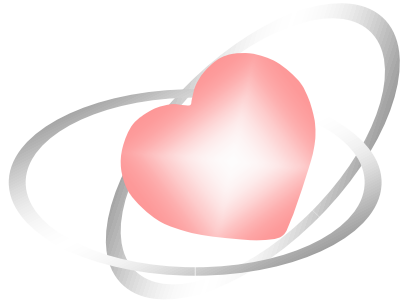
認知症高齢者の理解では

- 認知症になるまでは、判断能力が十分な生活をされてきた。
- 認知症の進行のスピードは千差万別
- 失行(以前はできていた動作ができなくなる)や、遂行機能障害(計画・順序立てての実行が難しくなる)のために生活に不便が生じることが多い



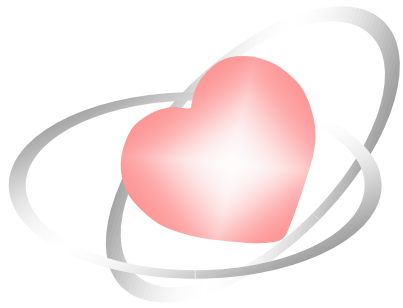
認知症高齢者の支援では

- 壮年期にされてきたこと、誇りにしてこられたことを理解する（仕事、子育て、地域や社会への貢献等）
- 価値、好み、生活様式を尊重する
- 本人が安心できる、心地良く感じられる言葉かけをする
- 声のトーン、声音、ペースに気をつける



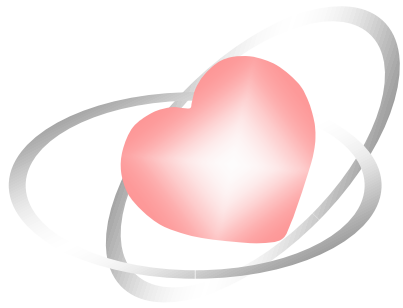
対人援助で大切なこと①

- よく話をきくこと
- 相手の立場であったらどのような気持ちになるかを想像する力を持つこと
- 本人の価値観を尊重すること
- 自分の価値観を押しつけないこと
- 社会の価値観を押しつけないこと



対人援助で大切なこと②

- よく話をきくこと 傾聴
 - 相手の立場であったらどのような気持ちになるかを想像する力を持つこと 共感
 - 本人の価値観を尊重すること
 - 自分の価値観を押しつけないこと
 - 社会の価値観を押しつけないこと
- 受容 自己覚知 非審判的態度



人としての理解のためには 包括的理解をする

身体的側面

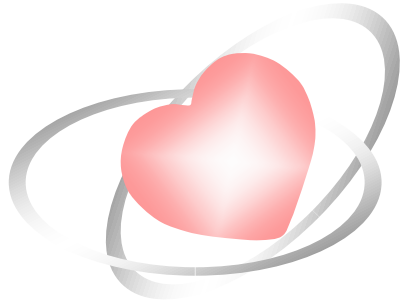
心理的側面

社会的側面①

(日中活動、生計維持
の手段、住む場所)

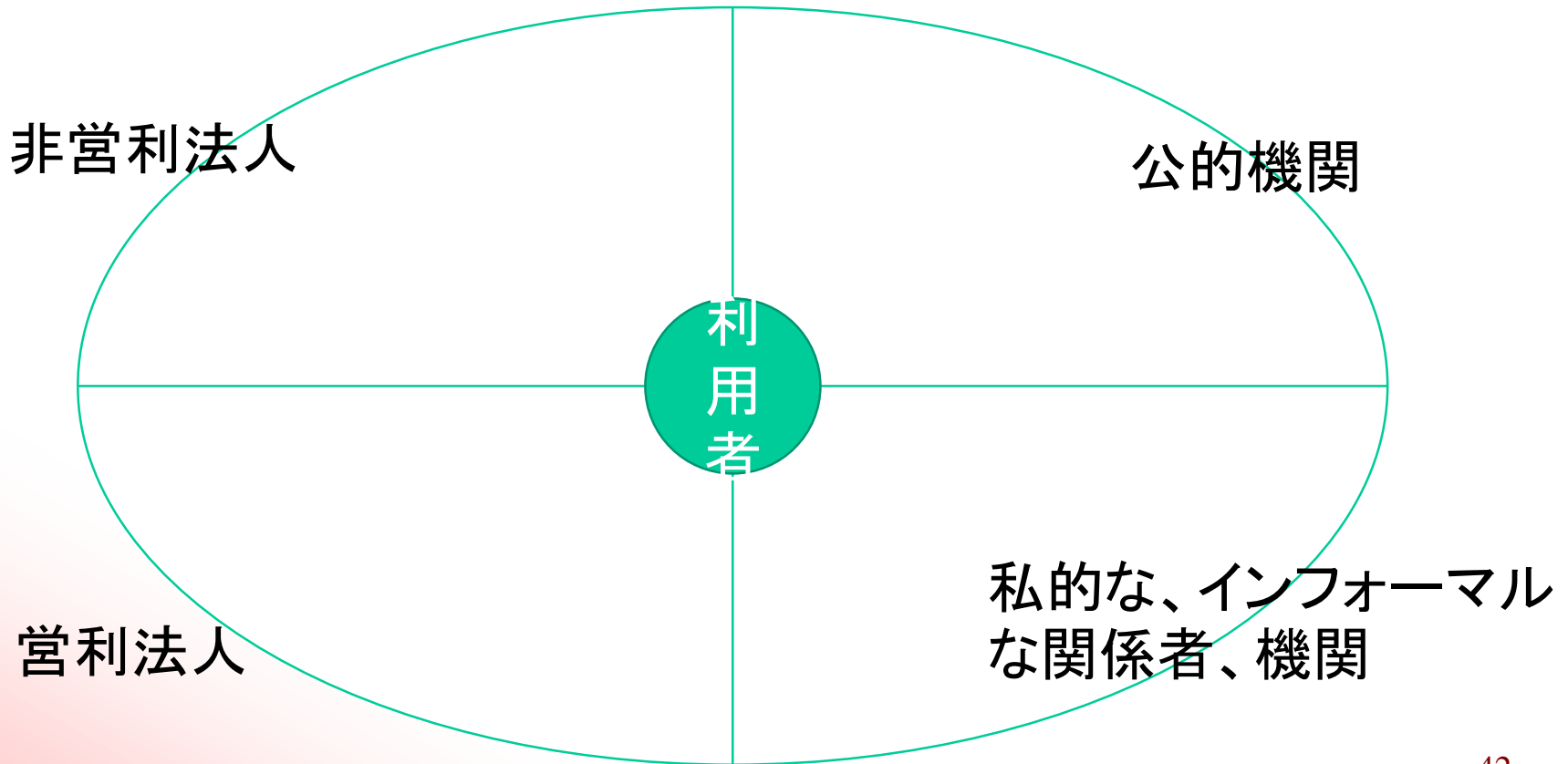
社会的側面②

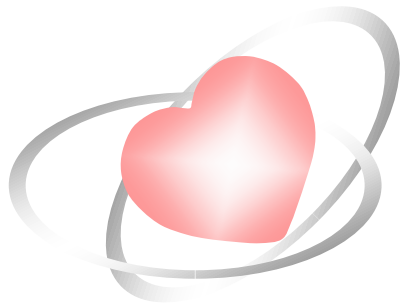
(インフォーマルな関係:
家族、友人、近所の人、
当事者仲間等、趣味・
余暇)



生活者として理解するためには

「環境の中の人」として理解する



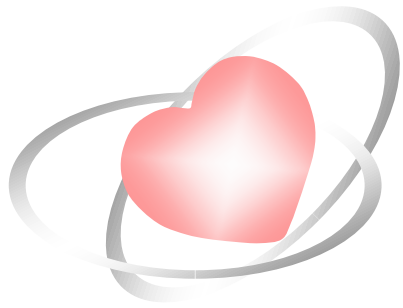


対象者の特性①

- 本人がパワーレスな状態にあったり遠慮していたりなど、自らSOSを発信したり、自分の意思を支援機関等に伝えることが難しいことが多い。

→判断能力の不十分な人の特徴であり、「意思の発信」が難しいことがある

(配布資料スライド23)

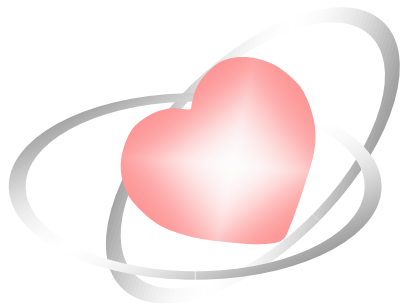


対象者の特性②

- 表面に見えている「問題」だけでなく、背景に様々な複合的な課題を抱えている。

→包括的な理解が必要

(配布資料スライド32, 33)

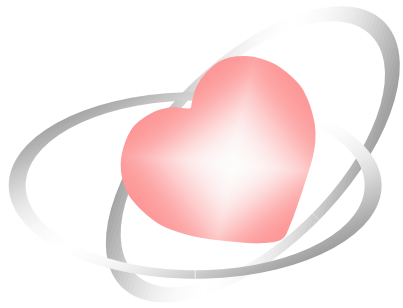


対象者の特性③

- 本人が支援の必要性を自覚していなかったり、本人と家族、支援機関の認識にずれがある。

→判断能力の不十分な人の特徴であり、「判断の支援」が必要

(配付資料スライド11, 12)



対象者の特性④

- 本人だけではなく、家族も含めて支援を必要としている場合がある。

→環境の中の人として理解することが必要
(配付資料スライド32, 33)